

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山の麓にあり3つのフロアを持つグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は見晴らしのよい高台に位置し、緑に囲まれ、木々にとまる小鳥を間近に見れるほど自然を肌で感じることができる。職員は利用者にはできることはしてもらい、笑顔で楽しく過ごしてほしいと願い、寄り添いながら利用者本位の支援につながるよう努めている。重度化していくなかで少しでも外出できるよう、毎月行事計画を立て出掛けるよう心がけている。看取り希望が多いことから母体である診療所と連携を図り、利用者と家族の意向を尊重した支援に努めていく方針である。また、地域住民との交流が十分でないため、管理者が交代したことで新たな気持ちで交流を深め地域に根ざした事業所となるよう前向きな姿勢で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 小川洋介

評価完了日 42297

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) フロアに理念を掲げている。理念を踏まえ実践につなげるようにしている。仕事前に見るように心がけている。	
			(外部評価) 仕事前に毎日、理念を目で確認して仕事に取りかかるよう意識づけしている。会議等でも理念の振り返りをしながらケアに反映しているか話し合いがされている。かかわり委員会において、理念に基づき各ユニットごとに目標が掲げられており、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 通勤時、散歩時等に挨拶をするように心がけている。日常には出来ていない。年1回の清掃活動には必ず参加している。	
			(外部評価) 保育園児の訪問で歌や踊りの披露があったり利用者が保育園を訪問することもある。今年も小学校の運動会に誘われ競技にも参加した。また中学生の体験学習や初任者研修の実習受け入れを行っている。地域住民との交流が少ないのが現状で、管理者が交代した挨拶を兼ね、地域住民との付き合いを深めていくよう努めていく方針である。	管理者自身も事業所が地域住民との交流が少ないと認識していることから、今後、交流が深まるよう態勢を整えてほしい。地域住民と自然に交流することにより、運営推進会議への参加や避難訓練への協力関係が築けるよう、日々の努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で活動を報告している。地域の方との交流があまり出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月に1回開催している。毎月の行事 報告、フロア内の取り組み等の活動や評価を報告して いる。意見などがあればすぐに対応している。	
			(外部評価) 利用者や家族、地区長、小学校長、保育園長、公民館 長、市職員の参加があり、事業所の説明と活動報告、 時には病気についての勉強や制度を題材に取り入れ運 営推進会議が行われている。今後は地域とかかわりな がら参加者が固定しないよう、また職員の参加も考 え、多様な意見が聞けるよう取り組む方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の構成員として参加して頂き、意見交換 等を行い、協力関係を築くようにしている。また、わ からないことがあれば、電話などで聞いたり、市役所 に出向いて相談したりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の様子 を知ってもらうなど良い関係ができています。ヒヤリハ ットの報告も迅速に行われており、利用者が転倒し怪我 を負った報告に対し適切なアドバイスを受けることが できています。4月に市の担当者が代わったことで新た な信頼関係の構築を図っていきたいと考えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはマニュアルを策定している。 玄関の施錠は昼間には行わず、拘束のないケアを行うよ うにしている。なお、年1回施設内で勉強会を行って いる。	
			(外部評価) 以前、点滴治療が必要な利用者に家族の同意を得て、 必要最低限な方法と日数を考慮し行ったことがある。 身体拘束に至るまでの分析を勉強会や研修等で話し合 いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいく方 針である。言葉かけにおいても利用者の尊厳を大切 に、慣れが出ないように注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年1回勉強会を行っていて、職員同士が日頃から気を付けるようにしている。利用者の変化に気を配り、職員同士の情報を共有している。また、家族会で高齢者虐待防止の取り組みを話をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各制度を概要をまとめた資料を職員が分かるところに置いていて、自由に閲覧できるようにしている。また、成年後見人養成研修（香川県社会福祉士会主催）に現在参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学や訪問をして頂き、疑問に対応している。事前調査を行い、わかりやすく丁寧に説明を行い、理解や同意を得るように努めている。また、利用者の状態に変化があった場合はその都度、こちらから説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。苦情相談先を玄関に掲示している。また、面会時に日頃の様子などを説明し、要望を聞くようにしている。また、家族にはなるべく話かけるようにしている。 (外部評価) 家族からは率直な意見は少ないが、面会時に少しでも要望が聞けるよう努めている。家族が何でも話せるよう雰囲気も大事にしている。食事会を兼ねた家族会では、妻に食事介助をしてもらい涙した利用者の姿が見れた。毎月、事業所新聞を送付しているが利用者の楽しそうな写真が喜ばれ、希望がある家族には写真のパソコンデータを渡すこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスを毎月行い、意見や提案を話し合っている。また、随時、何かないかと問いかけるようにしている。 (外部評価) 職員が不足しているのが現状である。管理者も現場の仕事に就いており夜勤も通常入っている。管理者の夜勤については今後検討していく方針である。各委員を立ち上げ役割分担しながらケアに務めている。利用者のケアについての意見もよく出ており、職員全員で話し合い反映されている。希望休を取り入れながら職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者手当などがあり、資格向上に向けての試験情報などを回覧している。また、就業規則などを自由に閲覧できるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修等に参加して、研修内容を業務カンファレンスで報告している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会への参加や他のグループホームの運営推進会議への参加や見学を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話や希望、不安等を傾聴し、ケアプランに取り入れている。また、声掛けや話し方に留意し関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に見学に来て頂いたり、事前調査や契約時に家 族の要望等を聞いたり、ケアプランに反映させるなど 関係作りに努めている。また、他のケアマネージャー や生活相談員から情報を得るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、本人、家族、ケアマネ等と話をし て何が必要か把握し、ケアに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者様のこれまでの経験や知識を参考に出来る範囲 の事をして頂き、感謝の気持ちを持って関係を築いて いる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や必要に応じて手紙などで報告して、関係性を 保つようにしている。家族に負担にならない程度に協 力を頂けるように話をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 面会時に来ていただき、関係性が途切れないようにし ている。なお、毎日でも面会をしても大丈夫ですよと 話をしている。 (外部評価) 友人が時々訪問してくれる利用者もいるが馴染みの人 や場所が希薄なのが現状である。買い物に行きたいと 要望があるためドライブがてら行くことが多い。今月 は城川の「かまぼこ板の絵」に利用者も出品している こともあり、展覧会に出向く予定である。利用者の思 いを聞きながら馴染みの関係継続の支援を大切にしてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人の性格、相性、身体状況、精神状態などを考慮し席順を決めたり、利用者同士のコミュニケーションの仲介をスタッフが行うなどして、一人一人の個性を把握し、支えあう場面作りをするようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も必要に応じ情報提供を行うようにしているが、利用者様が長期入院した場合や亡くなられて契約終了となることがあり、継続的には出来ていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話、関わりの中から思いや意向を把握するように努めている。毎月のケアカンファレンスで職員間で情報を共有し、意見交換を行っている。また、家族等にも聞いて対応している。	
			(外部評価) 利用者の何気ない言葉を大切にし、利用者の思いを知る手がかりにしたり、また表情や動作なども見逃さないよう観察力を高めている。利用者の思いは職員全員で共有し記録に残すなどして把握している。管理者は職員に目で観察することより肌で感じ取ることができ、利用者を心から観察できる専門職であってほしいと願っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、情報収集している。また、馴染みの物や生活歴を本人や家族などから聞き取りケアに努めている。また、わからないことがあれば支障がない程度に家族に聞くこともある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中で言葉や仕草等を観察し、変化や気づきを見落とさないように努めている。また、バイタルサインのチェックを行い、身体状況の変化、気づきを記録するようにしている。また、なんとなくいつもと違う状態を感じる時は、その違いを他のスタッフが共有出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者や家族の思いや意向などを聞き、毎月のケアカンファレンスで話し合い、意見交換をしている。そして、その結果をケアプランに取り入れてケアに反映させるようにしている。	
			(外部評価) 職員全員で話し合い、利用者や家族の意向を聞きながら担当者を中心に介護計画が作成されている。本人の意向の覧には利用者のそのままの言葉で記入している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族に確認しながら職員の意見や気づきを反映し、よりよい介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の経過観察記録、介護記録、毎日の業務日誌を記入し、スタッフ全員が確認しているようにしている。また、利用者の日頃の様子、気づき等を記録し、介護計画の見直しに役立てるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 往診時の対応や必要に応じてかかりつけの医師の受診の送迎などを行うようにしている。また、家族等に相談をしながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中、高校生等の職場体験の受け入れをしている。また、ボランティア等も受け入れている。しかし、地域資源との協働の取り入れはうまく出来ていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の往診と必要に応じて利用者の変化に対応し、 状態を報告し、受診や往診等を行っており、適切な医 療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 主に母体の診療所がかかりつけ医となっている。受診 は職員が同行しているが、頻回になる場合には家族の 協力を得ることがある。母体の診療所が月2回の往診 と24時間体制を取っており、利用者が安心して適切 な医療が受けられるよう支援している。ターミナル期 においては、毎日の訪問看護で家族や職員の安心につ ながっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回程度看護師の訪問があり、報告や相談を行っ ている。また、看護師に状態の変化や気づきを伝え、 個々に受診や往診の指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院までの経過や生活状況を情報提供し、治療の参考 にしている。また、入院後、定期的に入院先 に行って洗濯物の受け取りや、情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する指針を定め、契約時に説明が出来るよ うにしている。また、必要に応じて変化があれば本人 や家族の希望を聞き、ケアプラン等を変更している。	
			(外部評価) 看取り指針を定め入所時に説明を行い、同意書を交わ している。先月、看取りを行ったが、利用者の状態に 応じて医師から説明がされ訪問看護を受けながら職員 は連携を大切にしている。看取りの研修も母体診療所の 看護師によって法人全体で行うなど、職員の意識を高 める努力がされている。また管理者が待機するなどして 経験の少ない職員に不安をもたせない配慮がされてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や研修等を受けて実践できるように努めているが全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の総合避難訓練は年2回実施している。また、火災、災害時、原子力災害などの対応マニュアルを策定している。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。通報、初期消火、消火器具の取り扱いなど職員全員ができるよう取り組んでいる。また伊方原発30km圏域に入っていることから、災害への意識を高めていくことが重要だと認識している。備蓄等は現在注文中で早急に取り揃えたいと考えている。今後は地域住民と交流を深め、地域との協力体制の構築を図っていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個人の性格等を理解し、その人に合わせた声掛けや対応を心がけている。 雇用契約時、誓約書を交わし、個人情報の取り扱いに留意している。 (外部評価) 羞恥心が大きい入浴や排泄場面においては、個別対応や声かけに配慮しながら利用者のプライバシーを大切にしている。トイレ誘導時にはカーテンを利用し戸が開いても見えないよう配慮している。日常的な会話でも慣れがでないよう気をつけ、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人のペースに合わせた対応を心がけ、自己決定が出来るように働きかけるようにしている。その際に選択できるように数種類の選択肢を用意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 身体介護の必要な利用者様は、個々の希望に沿うことは難しい場面もあるが一人一人のペースを大切に支援するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人一人に合わせた声掛けや対応を行い、清潔に過ごせるように支援しているが、なかなか出来ない。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや片づけ等出来る方に手伝って頂くようにしている。	
			(外部評価) 献立は決まっているが、行事や外出などでは特別メニューに切替えるなど臨機応変に対応している。介助の必要な利用者にはゆっくり時間をかけるなど、時間差をつけて介助にあたっている。皆で揃って「いただきます」と和やかな雰囲気の中で食事ができている。食後は利用者が片付けや洗い物などできることをしている。外食が減ってきているので、また以前のように外食支援もしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量や水分量を記録やチェックをして、個人ごとの摂取量を把握するようにしている。また、一人一人の摂取量や食べやすい大きさの把握を行い、体調や状態の変化に応じて調整している。医師などにも定期的に相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行っている。一人一人の状態に合わせて声掛け、見守り、一部介助、全介助を行っている。また、義歯の洗浄、消毒を行い清潔を保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体介護がある利用者様は自立した排泄は難しいが、排泄パターンを把握してさりげない声掛けを行っている。また、一人一人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行うことで排泄の自立に向けた支援に努めている。 (外部評価) 日中はできるだけトイレで排泄できるよう自立を大切に支援が行われている。夜間のみ利用者の状態に合わせてポータブルトイレを使用したり、排泄チェック表を用いたりして、利用者一人ひとりの排泄状態を把握するよう努めている。トイレには男性用便器があり、使用する利用者もいる。利用者にあった適切な排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の排便の状態をチェックし、慢性的な便秘傾向のある方には、内服薬などで対応している。また、リハビリ体操や水分摂取量のチェックを行い、個々に応じた予防に努めている。医師に相談して対応することもある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴が出来るように支援している。また、個々の体調に合わせた入浴が出来るようにしている。基本的に毎日、入浴できる体制にある。体調が悪い方などは手浴や足浴などの行っている。 (外部評価) 週2回の入浴を基本としている。希望に応じ個別対応や同性介助を行い、状態に応じ手浴や足浴に切替え、利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。シャワーキャリーが用意され、利用者の身体機能に合わせ使用し、利用者の負担軽減につなげている。暖房も整備されており適切な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 睡眠パターンを把握し、安眠、安楽な姿勢が取れるよう体位交換も行っている。日中も休息がとれるよう配慮している。居室の温度、湿度、廊下の照明などに気を配り、快適に過ごせるように気を付けて環境整備に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明や医師による指導により、薬の用法などに注意している。また、説明書を添付し分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の出来ることを見つけ、食事の片づけや洗濯物たたみ、台拭きなどの手伝いをして頂き、役割を持って生活できるよう声かけ、見守りなどを行い支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月の行事計画で企画を立て、外出の機会が持てるように努めている。 (外部評価) 事業所の中庭で外気浴や散歩が日常的に行われている。買い物希望があればドライブがてら出かけている。肱川緑地のコスモス、菜の花、向日葵と季節に合わせ楽しんだり、今月には利用者が出品しているかまぼこ板展覧会に行くなど、毎月、行事企画を立て利用者が出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方が多く、施設で管理している。何人かは入居前に使われた財布を預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙、電話などのやり取りが出来ることが困難な方が多いが、利用者様が希望される場合には、電話の取次ぎを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間はカーテンを使い採光の調整を行ったり、空調による温度調節を行うなど居心地よく過ごせるように工夫している。冬の乾燥機には加湿器などを使用している。	
			(外部評価) 1階からは中庭の木々が間近に見られ、黄色く色づいた葉から季節の移り変わりを感じ取ることができる。リビングにはテーブル、畳スペースがあり自由にくつろぐ事ができ、調査日も指先運動を兼ね会話しながら作業をする利用者の姿があった。これからの季節、乾燥に配慮し加湿器が置かれ、利用者が居心地よく過ごせるよう空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 中庭にベンチがあり、くつろぐようにしている。また、畳のスペースで利用者同士が会話できるようにしている。玄関にもくつろげるようなソファを配置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を持ってこられたり、写真を貼ったりされている。混乱を招くような物は置かないように工夫している。	
			(外部評価) ベッド、エアコン、収納タンス、洗面台が備え付けとなっている。家族の写真やテレビ、整理タンス、洗面台には化粧水やカミソリなど馴染みの物が持ち込まれている。また、時代を感じる利用者の若かりし頃の写真が飾ってあったことが印象に残っている。入り口の名札の裏には災害時の避難確認ができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、風呂場、トイレなどに手すりがあり、安全な環境になるように配慮している。また、トイレや居室が分かるように名札を付けるなどの工夫をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山の麓にあり3つのフロアを持つグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は見晴らしのよい高台に位置し、緑に囲まれ、木々にとまる小鳥を間近に見れるほど自然を肌で感じることができる。職員は利用者にはできることはしてもらい、笑顔で楽しく過ごしてほしいと願い、寄り添いながら利用者本位の支援につながるよう努めている。重度化していくなかで少しでも外出できるよう、毎月行事計画を立て出掛けるよう心がけている。看取り希望が多いことから母体である診療所と連携を図り、利用者と家族の意向を尊重した支援に努めていく方針である。また、地域住民との交流が十分でないため、管理者が交代したことで新たな気持ちで交流を深め地域に根ざした事業所となるよう前向きな姿勢で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星城

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

小川 洋介

評価完了日

平成27年10月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・スタッフは出勤時等に会社の理念を見て、仕事に取り掛かるようにし、日頃のケアや行事計画に繋げている。 (外部評価) 仕事前に毎日、理念を目で確認して仕事に取りかかるよう意識づけしている。会議等でも理念の振り返りをしながらケアに反映しているか話し合いがされている。かかわり委員会において、理念に基づき各ユニットごとに目標が掲げられており、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地区の清掃に参加させて頂いたり、ご近所の人や、施設の前を散歩などしている人に、なるべく元気に挨拶を行っている。 (外部評価) 保育園児の訪問で歌や踊りの披露があったり利用者が保育園を訪問することもある。今年も小学校の運動会に誘われ競技にも参加した。また中学生の体験学習や初任者研修の実習受け入れを行っている。地域住民との交流が少ないのが現状で、管理者が交代した挨拶を兼ね、地域住民との付き合いを深めていくよう努めていく方針である。	管理者自身も事業所が地域住民との交流が少ないと認識していることから、今後、交流が深まるよう態勢を整えてほしい。地域住民と自然に交流することにより、運営推進会議への参加や避難訓練への協力関係が築けるよう、日々の努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・施設内に留まらない様、施設の近所を入居者様と散歩する機会を増やし、ご近所の方と会った時は、会話等をして、認知症の理解をして頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ご家族様や市の方々から、意見、要望を頂き、会議の内容をまとめた物を、各階の掲示板に掲示し、スタッフのサービスの向上に役立っている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地区長、小学校長、保育園長、公民館長、市職員の参加があり、事業所の説明と活動報告、時には病気についての勉強や制度を題材に取り入れ運営推進会議が行われている。今後は地域とかかわりながら参加者が固定しないよう、また職員の参加も考え、多様な意見が聞けるよう取り組む方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議で、意見交換などを行いながら、交流を深めている。また、介護相談員の来所があり、入居者様を交えて、雑談や、会話をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の様子を知らせてもらうなど良い関係ができている。ヒヤリハットの報告も迅速に行われており、利用者が転倒し怪我を負った報告に対し適切なアドバイスを受けることができている。4月に市の担当者が代わったことで新たな信頼関係の構築を図っていきたいと考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・研修に参加したり、勉強会を開いて、拘束のないケアの実践に役立っている。只、仕事上の勤務の都合で、勉強会等に参加出来ないスタッフもいる。後日、研修報告を回覧し、内容を周知するようにしている。	
			(外部評価) 以前、点滴治療が必要な利用者に家族の同意を得て、必要最低限な方法と日数を考慮し行ったことがある。身体拘束に至るまでの分析を勉強会や研修等で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいく方針である。言葉かけにおいても利用者の尊厳を大切に、慣れが出ないように注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・職員同士で話し合い、注意をし合い、虐待のないケアに取り組んでいる。また、研修や勉強会を行い、全員で話し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・講師を呼んで、研修を開いている。参加したスタッフには研修報告を提出してもらっているが、制度等に対して、理解出来てない所がある。制度に該当される入居者様が居られるフロアもあり、関係者と会話し、制度に対し、少しでも知識を増やそうと努めている職員も居る。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・ご家族様の面会時等に、ご意見、不安、疑問点を、尋ね、十分に説明を行い、理解をして頂き、気軽に聞いていただける様、努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・家族会を開いたり、ご家族様の来訪時に意見や要望を聞き取り、また、電話等で会話し、個別に聞き取れるように努めている。 (外部評価) 家族からは率直な意見は少ないが、面会時に少しでも要望が聞けるよう努めている。家族が何でも話せるよう雰囲気も大事にしている。食事会を兼ねた家族会では、妻に食事介助をしてもらい涙した利用者の姿が見れた。毎月、事業所新聞を送付しているが利用者の楽しそうな写真が喜ばれ、希望がある家族には写真のパソコンデータを渡すこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・意見箱を利用し、意見や提案をしてもらい、業務カンファレンスで報告している。 (外部評価) 職員が不足しているのが現状である。管理者も現場の仕事に就いており夜勤も通常入っている。管理者の夜勤については今後検討していく方針である。各委員を立ち上げ役割分担しながらケアに務めている。利用者のケアについての意見もよく出ており、職員全員で話し合い反映されている。希望休を取り入れながら職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・資格取得者に資格手当を設けて、向上心を持てるようにしている。また、職員に当番や役割を与え、責任感等を持って貰えるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・認知症実践者研修に参加させたり、各自、研修に参加させ、報告を貰っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・法人外グループホームと交流を持ち、良い情報等を参考にして、サービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い、本人と十分に話し合い、アセスメント等を作成し、本人の情報を集め、会話し、施設に早く馴染める様、努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い、直接、言いにくい事も、アセスメントシートに書いて頂き、ご家族様の思いを理解、実践出来る様、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・ご家族様が出来る事、協力できる事、施設側が出来る事を話し合い、本人にあったサービスが受けられるよう、支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・入居者様を家族の一員として、職員と共にお手伝い等、参加できる事には、参加して頂き、退屈な生活にならないように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・来訪時に部屋で、本人様と過ごしやすい環境づくりをしている。その時、本人様の最近の情報を聞いて頂き、ご家族様の思いを聞き取れるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・一ヶ月に一度、行事として買い物を行っている。また、買い物の帰り道などに、日常で聞いた場所等をドライブコースに取り入れたりしている。 (外部評価) 友人が時々訪問してくれる利用者もいるが馴染みの人や場所が希薄なのが現状である。買い物に行きたいと要望があるためドライブがてら行くことが多い。今月は城川の「かまぼこ板の絵」に利用者も出品していることもあり、展覧会に出向く予定である。利用者の思いを聞きながら馴染みの関係継続の支援を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・興味のある事を把握し、毎日の観察の中で、利用者様同士がよりよい関係が保てるように、一緒にレクリエーションや会話等を楽しみ、入居者様同士の橋渡しに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・相談があった場合、本人の状態や、今後の対応について、ご家族様と連絡を取り合い、情報交換をしながら、相談や、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・本人やご家族様から意向や要望を聞き、意見に沿って、ケアプランに取り組み、実践している。 (外部評価) 利用者の何気ない言葉を大切にし、利用者の思いを知る手がかりにしたり、また表情や動作なども見逃さないよう観察力を高めている。利用者の思いは職員全員で共有し記録に残すなどして把握している。管理者は職員に目で観察することより肌で感じ取ることができ、利用者を心から観察できる専門職であってほしいと願っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・ご家族様から、情報を聞き、情報収集を行い、入居者様の生活歴や、思いなどを把握し、日々のケアに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・日常生活の中で、一日の流れを把握し、個人の記録や、日誌等の記録に、スタッフ同士が情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・定期的に入居者担当者が、計画作成者と共に、会議を開き、他職員とモニタリングを行い、ケアプランの内容に対して、継続又は修正をし、ケアの向上に反映している。	
			(外部評価) 職員全員で話し合い、利用者や家族の意向を聞きながら担当者を中心に介護計画が作成されている。本人の意向の覧には利用者のそのまの言葉で記入している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族に確認しながら職員の意見や気づきを反映し、よりよい介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の生活の様子を記録する事で、そのフロアスタッフが情報を共有し、ケアの向上や、プランの検討、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ・季節の行事を毎月、計画し、楽しんで参加して頂いてる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・一年に一度、地区のお祭りで、近くの幼稚園児が来所して、踊りや歌などを披露して貰い、入居者様は、楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・2週間に一回、主治医が往診に来られ、健康管理を 図っている。利用者様の体調が悪くなり、受診が困難 な場合は、往診に来て頂いている。 (外部評価) 主に母体の診療所がかかりつけ医となっている。受診 は職員が同行しているが、頻回になる場合には家族の 協力を得ることがある。母体の診療所が月2回の往診 と24時間体制を取っており、利用者が安心して適切 な医療が受けられるよう支援している。ターミナル期 においては、毎日の訪問看護で家族や職員の安心につ ながっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・スタッフは、入居者様の体調などの変化が見られた 時、随時、看護師と連絡、相談し、受診等受けられる ように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入居者様の情報を医療機関や主治医、医療連携の看 護師に伝えている。退院後、医療機関等から、情報を 頂き、今後の介護に活かせる様に、計画の新たな作成 を行えるよう、努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・入居者様の心身の状態などをご家族様に伝え、ホー ムで可能な対応などについて話し合い、ご家族様の協 力を頂きながら、対応しております。 (外部評価) 看取り指針を定め入所時に説明を行い、同意書を交わ している。先月、看取りを行ったが、利用者の状態に 応じて医師から説明がされ訪問看護を受けながら職員 は連携を大切にした。看取りの研修も母体診療所の看 護師によって法人全体で行うなど、職員の意識を高め る努力がされている。また管理者が待機するなどして 経験の少ない職員に不安をもたせない配慮がされてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・緊急時マニュアルを理解し、緊急時の対応に備えている。また、救命講習をスタッフ全員受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・年2回、火災時の避難訓練を、想定夜間時、昼間時と分けて行っている。只、原発非難区域になっており、指導などは受けているが、入居者様を連れて、実際に非難区域までの避難訓練は、行えていない。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。通報、初期消火、消火器具の取り扱いなど職員全員ができるよう取り組んでいる。また伊方原発30km圏域に入っていることから、災害への意識を高めていくことが重要だと認識している。備蓄等は現在注文中で早速に取り揃えたいと考えている。今後は地域住民と交流を深め、地域との協力体制の構築を図っていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・個々の人格を尊重すると同時に誇りやプライバシーを傷つけないように、職員同士で話し合い、声掛けを行うように努めている。 (外部評価) 羞恥心が大きい入浴や排泄場面においては、個別対応や声かけに配慮しながら利用者のプライバシーを大切にしている。トイレ誘導時にはカーテンを利用し戸が開いても見えないよう配慮している。日常的な会話でも慣れがでないよう気をつけ、利用者一人ひとりの尊厳を大切にするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・入居者様との日頃の関わり合いを通して、お互いの信頼関係を築き、本人が希望をし、自己決定しやすい声掛けを行ったり、雰囲気、環境を作れるよう、心がけて努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・個々本人の気持ちを尊重し、無理強いすることなく、本人のペースで穏やかにのんびりと過ごして頂けるよう、心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・毎日気持ちよく過ごしていただけるように、本人と会話をしながら、身だしなみの声掛けや、介助を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・入居者様が食べたい物を献立に取り入れたり、誕生日には、ケーキを食べて頂いたりしている。また、献立には、季節の食材を取り入れるようにしている。 (外部評価) 献立は決まっているが、行事や外出などでは特別メニューに切替えるなど臨機応変に対応している。介助の必要な利用者にはゆっくり時間をかけるなど、時間差をつけて介助にあたっている。皆で揃って「いただきます」と和やかな雰囲気の中で食事ができている。食後は利用者が片付けや洗い物などできることをしている。外食が減ってきているので、また以前のように外食支援もしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・水分と食事摂取量を一人一人合わせた必要量を職員は、常に把握し、きちんと入居者様が、摂取できるよう、声掛け合い、努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後声掛けや、見守り、介助にて口腔ケアを実施している。また、口腔ケアが困難な場合は、歯科医に相談をし、対策を聞いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・排泄の有無をスタッフは記録し、パターンを理解し、トイレでの排泄が行えるよう、支援をしている。	
			(外部評価) 日中はできるだけトイレで排泄できるよう自立を大切に支援が行われている。夜間のみ利用者の状態に合わせてポータブルトイレを使用したり、排泄チェック表を用いたりして、利用者一人ひとりの排泄状態を把握するよう努めている。トイレには男性用便器があり、使用する利用者もいる。利用者にあった適切な排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・健康体操や、軽い腹部へのマッサージを行い、便秘への予防に取り組んでいる。また、水分を十分に摂って頂ける様、声掛けをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・入浴をして頂く順番は、決まっているが、入浴される本人の体調や気分をしっかりと把握して、見守りなどを行いながら、気持ちよく、ゆったり入浴して頂ける様に取り組んでいる。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本としている。希望に応じ個別対応や同性介助を行い、状態に応じ手浴や足浴に切替え、利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。シャワーキャリーが用意され、利用者の身体機能に合わせて使用し、利用者の負担軽減につなげている。暖房も整備されており適切な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・日中の活動を行いながら、本人の意思を尊重し、昼寝をされたい方は、して頂いている。夜間の入床時間も本人に任せている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・入居者様一人一人、服薬している薬の処方箋を介護記録、サマリーに挟み、理解に努めている。服薬は、職員が、その都度手渡し、服薬確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・本人のしたいことをして頂くようにしている。職員や他の入居者様と会話を楽しんで頂いたり、レクリエーション等を通して、笑顔ある生活を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・要望、希望があれば、ご家族様に協力して頂いたり、行事として、外出の計画を行ったりしている。	
			(外部評価) 事業所の中庭で外気浴や散歩が日常的に行われている。買い物希望があればドライブがてら出かけている。肱川緑地のコスモス、菜の花、向日葵と季節に合わせ楽しんだり、今月には利用者が出品しているかまぼこ板展覧会に行くなど、毎月、行事企画を立て利用者が出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・買い物で外出された時に、時間等に余裕がある時は、本人に支払いをして頂いている。金銭の管理は、管理者が行っており、定期的にご家族様へ報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・必要に応じて、ご家族様と電話で会話をして頂いたり、届いたお便りは、本人に渡し、見て頂く様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・朝の清掃以外で出来ない所を、時間を見て、掃除を行い、共用の空間の清潔を保つようにしている。また、季節の花を食卓等に飾ったりしている。	
			(外部評価) 1階からは中庭の木々が間近に見られ、黄色く色づいた葉から季節の移り変わりを感じ取ることができる。リビングにはテーブル、畳スペースがあり自由にくつろぐ事ができ、調査日も指先運動を兼ね会話しながら作業をする利用者の姿があった。これからの季節、乾燥に配慮し加湿器が置かれ、利用者が居心地よく過ごせるよう空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・共同の空間でも、入居者様同士で、自由に話し合えたり、思い思いに過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・本人の使い慣れた服や、布団などをご家族様に用意して頂き、ご本人様が居心地よく過ごして頂けるようにしている。	
			(外部評価) ベッド、エアコン、収納タンス、洗面台が備え付けとなっている。家族の写真やテレビ、整理タンス、洗面台には化粧水やカミソリなど馴染みの物が持ち込まれている。また、時代を感じる利用者の若かりし頃の写真が飾ってあったことが印象に残っている。入り口の名札の裏には災害時の避難確認ができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・建物内部は、バリアフリーになっており、手すりも多くある。床などに物を置かないように安全面に配慮している。トイレなどには、大文字で、扉に表示して、分かりやすくしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の神南山の麓にあり3つのフロアを持つグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は見晴らしのよい高台に位置し、緑に囲まれ、木々にとまる小鳥を間近に見れるほど自然を肌で感じることができる。職員は利用者にできることはしてもらい、笑顔で楽しく過ごしてほしいと願い、寄り添いながら利用者本位の支援につながるよう努めている。重度化していくなかで少しでも外出できるよう、毎月行事計画を立て出掛けるよう心がけている。看取り希望が多いことから母体である診療所と連携を図り、利用者と家族の意向を尊重した支援に努めていく方針である。また、地域住民との交流が十分でないため、管理者が交代したことで新たな気持ちで交流を深め地域に根ざした事業所となるよう前向きな姿勢で取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム星城

(ユニット名)

3F

記入者(管理者)

氏 名

徳生ナナコ

評価完了日

平成27年10月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・いつも見えるところに掲示しており、行事計画や日頃のケアに繋げている ・フロアの理念もある (外部評価) 仕事前に毎日、理念を目で確認して仕事に取りかかるよう意識づけしている。会議等でも理念の振り返りをしながらケアに反映しているか話し合いがされている。かかわり委員会において、理念に基づき各ユニットごとに目標が掲げられており、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・通勤時や植木の水やり時の挨拶に気を付けている ・地域の行事（清掃）に参加している ・回覧板にホームの新聞を入れてもらっている (外部評価) 保育園児の訪問で歌や踊りの披露があったり利用者が保育園を訪問することもある。今年も小学校の運動会に誘われ競技にも参加した。また中学生の体験学習や初任者研修の実習受け入れを行っている。地域住民との交流が少ないのが現状で、管理者が交代した挨拶を兼ね、地域住民との付き合いを深めていくよう努めていく方針である。	管理者自身も事業所が地域住民との交流が少ないと認識していることから、今後、交流が深まるよう態勢を整えてほしい。地域住民と自然に交流することにより、運営推進会議への参加や避難訓練への協力関係が築けるよう、日々の努力に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・介護職員初任者研修の講師として地域へ向けて生かしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に一回開催して会議での意見を参考にし、サービスの向上に役立てている	
			(外部評価) 利用者や家族、地区長、小学校長、保育園長、公民館長、市職員の参加があり、事業所の説明と活動報告、時には病気についての勉強や制度を題材に取り入れ運営推進会議が行われている。今後は地域とかかわりながら参加者が固定しないよう、また職員の参加も考え、多様な意見が聞けるよう取り組む方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議や介護相談員の来所がある	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の様子を知ってもらうなど良い関係ができています。ヒヤリハットの報告も迅速に行われており、利用者が転倒し怪我を負った報告に対し適切なアドバイスを受けることができています。4月に市の担当者が代わったことで新たな信頼関係の構築を図っていきたいと考えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ・ドアに音が鳴るようにして利用者の様子を確認して いて施錠はしていない ・全員ではないが、研修を受けている。研修報告として周知し、ホームでも勉強会をしている	
			(外部評価) 以前、点滴治療が必要な利用者に家族の同意を得て、必要最低限な方法と日数を考慮し行ったことがある。身体拘束に至るまでの分析を勉強会や研修等で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいく方針である。言葉かけにおいても利用者の尊厳を大切に、慣れが出ないように注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・全員ではないが、研修を受けている ・研修報告をして全員で話し合い防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・全員が理解できるようにしたい ・利用されている方もいる	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・不安や疑問点などを十分に聞き、納得を得られるように個別の配慮を行っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・家族来訪時や電話で個別に意見や要望を聞き取るように努力している ・意見箱を設置している (外部評価) 家族からは率直な意見は少ないが、面会時に少しでも要望が聞けるよう努めている。家族が何でも話せるよう雰囲気も大事にしている。食事会を兼ねた家族会では、妻に食事介助をしてもらい涙した利用者の姿が見れた。毎月、事業所新聞を送付しているが利用者の楽しそうな写真が喜ばれ、希望がある家族には写真のパソコンデータを渡すこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・月一回の全体での業務カンファレンスをしている (外部評価) 職員が不足しているのが現状である。管理者も現場の仕事に就いており夜勤も通常入っている。管理者の夜勤については今後検討していく方針である。各委員を立ち上げ役割分担しながらケアに務めている。利用者のケアについての意見もよく出ており、職員全員で話し合い反映されている。希望休を取り入れながら職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・有資手当を設けて資格習得といった向上心を持てるように取り組んでいる	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修に参加し報告している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・法人外グループホームとの交流を持ち相互訪問している	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い本人と十分に話をし、思いを理解し、見学等もして頂く等馴染みになるようにしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・事前調査を行い、家族の思いを理解出来るように関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・その方に合った支援に合うサービスを受けられるような対応をしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・本人が出来る事は出来るように支援し、職員から「ありがとう」と言えるような関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・面会時には家族の思いを聞き取れるような会話に努め、電話や面会など家族の支援もお願いしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・行きなれた所に行き、知人に出会って会話することもある (外部評価) 友人が時々訪問してくれる利用者もいるが馴染みの人や場所が希薄なのが現状である。買い物に行きたいと要望があるためドライブがてら行くことが多い。今月は城川の「かまぼこ板の絵」に利用者も出品していることもあり、展覧会に出向く予定である。利用者の思いを聞きながら馴染みの関係継続の支援を大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・レクリエーション等を通して、暮らしを楽しめるような関係づくりに努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・入院時に情報提供を行っている ・お見舞いに行くようにしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・日々の会話や行動により本人の思いを把握するようにしている (外部評価) 利用者の何気ない言葉を大切にし、利用者の思いを知る手がかりにしたり、また表情や動作なども見逃さないよう観察力を高めている。利用者の思いは職員全員で共有し記録に残すなどして把握している。管理者は職員に目で観察することより肌で感じ取ることができ、利用者を心から観察できる専門職であってほしいと願ってる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・事前調査や面会時に聞いている ・聞き取りの難しい時もあるが、少しずつアセスメントを行い把握している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・全職員が把握できるように申し送りをしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ・日々の会話や面会時の会話によりアセスメントを行っており、月に1回のカンファレンスで話し合っている ・3ヶ月に一回モニタリングを行い、介護計画を作成している	
			(外部評価) 職員全員で話し合い、利用者や家族の意向を聞きながら担当者を中心に介護計画が作成されている。本人の意向の覧には利用者のそのまの言葉で記入している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族に確認しながら職員の意見や気づきを反映し、よりよい介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ・個別の記録を行い、申し送りの徹底、情報を共有して実践や介護計画の見直しに生かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ・体調に合わせた受診や往診依頼を行っている その都度家族への連絡や報告も行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・1ヶ月に1回介護相談員の来所がある ・園児とのふれあい ・小学校の運動会の見学	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ・かかりつけ医がおり往診が可能である	
			(外部評価) 主に母体の診療所がかかりつけ医となっている。受診 は職員が同行しているが、頻回になる場合には家族の 協力を得ることがある。母体の診療所が月2回の往診 と24時間体制を取っており、利用者が安心して適切 な医療が受けられるよう支援している。ターミナル期 においては、毎日の訪問看護で家族や職員の安心につ ながっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ・医療連携看護師に状態や様子を伝えている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・相談できる体制がある	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・看取りに関する方針がある ・家族や医療関係者と連携し共に取り組んでいる	
			(外部評価) 看取り指針を定め入所時に説明を行い、同意書を交わ している。先月、看取りを行ったが、利用者の状態に 応じて医師から説明がされ訪問看護を受けながら職員 は連携を大切にした。看取りの研修も母体診療所の看 護師によって法人全体で行うなど、職員の意識を高め る努力がされている。また管理者が待機するなどして 経験の少ない職員に不安をもたせない配慮がされてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・救命の講習を受けているが、定期的に行えていない	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・避難訓練を行っている ・地域の方の連絡網を作成している (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。通報、初期消火、消火器具の取り扱いなど職員全員ができるよう取り組んでいる。また伊方原発30km圏域に入っていることから、災害への意識を高めていくことが重要だと認識している。備蓄等は現在注文中で早急に取り揃えたいと考えている。今後は地域住民と交流を深め、地域との協力体制の構築を図っていく方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・プライバシーや尊厳を守るよう、さりげない対応に努めている (外部評価) 羞恥心が高い入浴や排泄場面においては、個別対応や声かけに配慮しながら利用者のプライバシーを大切にしている。トイレ誘導時にはカーテンを利用し戸が開いても見えないよう配慮している。日常的な会話でも慣れがでないよう気をつけ、利用者一人ひとりの尊厳を大切にするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・日々の会話や行動によりその人を把握しており、その人らしく自己決定できるように支援している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・その方の体調や性格などその人に合ったケアに取り組んでいる	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・出張美容室を利用している ・出来る方は起床時に整容出来るように支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・一部の利用者だが準備や片づけを一緒に行っている (外部評価) 献立は決まっているが、行事や外出などでは特別メニューに切替えるなど臨機応変に対応している。介助の必要な利用者にはゆっくり時間をかけるなど、時間差をつけて介助にあたっている。皆で揃って「いただきます」と和やかな雰囲気の中で食事ができている。食後は利用者が片付けや洗い物などできることをしている。外食が減ってきているので、また以前のように外食支援もしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・その人に合った支援を行っている ・食事チェック、水分チェックを行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・食後に行っている ・週一回義歯洗浄剤を使用している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・排泄のパターンを出来るだけ理解し、トイレでの排泄が出来るように支援している	
			(外部評価) 日中はできるだけトイレで排泄できるよう自立を大切に支援が行われている。夜間のみ利用者の状態に合わせてポータブルトイレを使用したり、排泄チェック表を用いたりして、利用者一人ひとりの排泄状態を把握するよう努めている。トイレには男性用便器があり、使用する利用者もいる。利用者にあった適切な排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・飲食物を工夫している ・水分が十分摂取できるように支援している ・毎日運動するように支援している	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本としている。希望に応じ個別対応や同性介助を行い、状態に応じ手浴や足浴に切替え、利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。シャワーキャリーが用意され、利用者の身体機能に合わせ使用し、利用者の負担軽減につなげている。暖房も整備されており適切な入浴支援が行われている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・順番等出来るだけ希望に添えるように努めている ・入浴拒否の方の場合は、声掛けのタイミングを工夫してゆっくり出来るようにしている	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本としている。希望に応じ個別対応や同性介助を行い、状態に応じ手浴や足浴に切替え、利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。シャワーキャリーが用意され、利用者の身体機能に合わせ使用し、利用者の負担軽減につなげている。暖房も整備されており適切な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・昼寝をしたい方、テレビを見たい方、その方に合った支援をしている	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・すぐ確認出来る様にファイルにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・趣味や好きな事が出来る様に環境作りに努めている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・散歩や買い物の支援をしている ・家族と外出される方もいる (外部評価) 事業所の中庭で外気浴や散歩が日常的に行われている。買い物希望があればドライブがてら出かけている。肱川緑地のコスモス、菜の花、向日葵と季節に合わせ楽しんだり、今月には利用者が出品しているかまぼこ板展覧会に行くなど、毎月、行事企画を立て利用者が出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・買い物時は自分で支払するように声掛けしている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・電話の取次ぎを行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・狭いが季節感を持てるように飾り付け、居心地の良い空間作りを心掛けている	
			(外部評価) 1階からは中庭の木々が間近に見られ、黄色く色づいた葉から季節の移り変わりを感じ取ることができる。リビングにはテーブル、畳スペースがあり自由にくつろぐ事ができ、調査日も指先運動を兼ね会話しながら作業をする利用者の姿があった。これからの季節、乾燥に配慮し加湿器が置かれ、利用者が居心地よく過ごせるよう空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・居室以外で一人になれる所は無いが、思い思いに過ごせるように支援している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・毛布など使い慣れたものを持って来て貰う様にしている	
			(外部評価) ベッド、エアコン、収納タンス、洗面台が備え付けとなっている。家族の写真やテレビ、整理タンス、洗面台には化粧水やカミソリなど馴染みの物が持ち込まれている。また、時代を感じる利用者の若かりし頃の写真が飾ってあったことが印象に残っている。入り口の名札の裏には災害時の避難確認ができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・居室が分かりやすいように名前を書き目印になるものを付けている	